



3503

使用説明書

動物用医薬品

使用前に必ず本使用説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

日生研AR混合ワクチンBP

(豚ボルデテラ感染症・パストツレラ・ムルトシダトキソイド混合(アジュバント加)ワクチン(シード))

[製法及び性状]

本剤はボルデテラ・ブロンキセプチカの液体培地培養菌をホルマリンで不活性化後、遠心集菌して得た再浮遊菌液にアジュバントを加えたものと、パストツレラ・ムルトシダの培養菌体から部分精製した皮膚壊死毒素を、ホルマリンで不活性化しアジュバントを加えたものを混合したものである。本剤は静置の状態では無色透明な上液と乳灰白色不透明の沈殿に分かれるが、振り混ぜると乳灰白色不透明の均質な液体となる。pHは7.2~7.8である。

[成分及び分量]

ワクチン 1mL 中

ボルデテラ・ブロンキセプチカ N-40 株 (I相菌) (シード) 不活化菌	総菌数	3×10 ⁸ ~3×10 ⁹ 個
パストツレラ・ムルトシダ G-7 株 (荚膜抗原型 D) (シード) 培養菌から部分精製した不活化皮膚壊死毒素	タンパク量 (不活性化前) として	12~20μg
ホルマリン		2.5μL以下
チメロサル		0.1mg以下
水酸化アルミニウムゲル	アルミニウム量として	2.4mg以下
リン酸緩衝食塩液		残量

[効能又は効果]

ボルデテラ・ブロンキセプチカ及び毒素産生パストツレラ・ムルトシダの混合感染、又はそのいずれかの菌の感染による豚の萎縮性鼻炎の予防

[用法及び用量]

・母豚に用いる場合

1回 5mL ずつを 1~2 か月の間隔で 2 回、筋肉内に注射する。ただし、2 回目の注射は分娩予定日の約 1 か月前に行う。

次回以降の繁殖時に行う補強注射は、5mL をその分娩予定日の約 1 か月前に 1 回、筋肉内に行う。

・子豚に用いる場合

3 週齢以上の子豚に対し、1 回 1mL ずつを 3~5 週の間隔で 2 回、筋肉内に注射する。

[使用上の注意]

(一般的注意)

1. 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
2. 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
3. 本剤は効能・効果において定められた目的のみ使用すること。
4. 本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

(使用者に対する注意)

1. 誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば本使用説明書を持参し、受傷について医師の診察を受けること。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
ボルデテラ・ブロンキセプチカ	否	死	有	アルミニウムゲル
パストツレラ・ムルトシダ皮膚壊死毒素	否	死		

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

日生研株式会社 製品係 〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目 2221 番地の1
TEL 0428-33-1009、FAX 0428-31-6696

2. 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

〔豚に対する注意〕

1. 制限事項

- (1) 本剤の注射前には健康状態について検査し、次のいずれかに該当すると認められる場合には注射しないこと。
 - ・重大な異常（重篤な疾病）を認めたもの。
 - ・種付予定前 10 日以内のもの、哺乳中のもの、種付後 20 日以内及び分娩前 20 日以内のもの。
- (2) 豚が次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。
 - ・発熱、咳、下痢又は重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
 - ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
 - ・明らかな栄養障害があるもの。
 - ・他の薬剤投与、導入又は移動後間がないもの。
- (3) 本剤の注射後、少なくとも 1～2 日間は安静につとめ、移動や激しい運動は避けるように指導すること。また、温度管理等に十分に注意し、豚に与えるストレスの軽減につとめること。

2. 副反応

副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けるよう指導するとともに、副反応に対して適切な処置を行うこと。

3. 相互作用

本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。

4. 適用上の注意

- (1) 移行抗体価の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので、幼若な豚への注射は移行抗体が消失する時期を考慮すること。
- (2) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、常温まで冷えたものを使用すること。
- (3) 本剤容器のゴム栓は、70% アルコールで消毒し、滅菌済みの注射針をゴム栓から刺し込み、ワクチンを注射器内に吸引して使用すること。ゴム栓を取り外しての使用は、雑菌混入のおそれがあるので避けること。
- (4) 注射部位は 70% アルコールで消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (5) 注射器具（注射針）は原則として 1 頭ごとに取り替えること。
- (6) 注射部位を厳守すること。

〔取扱い上の注意〕

1. ワクチン瓶は破損するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
2. 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
3. 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
4. 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので、注意すること。
5. 使用時よく振り混ぜて均一とすること。
6. 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
7. 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
8. 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

〔保管上の注意〕

1. 小児の手の届かないところに保管すること。
2. 直射日光又は凍結は、品質に影響を与えるので避けること。

注意—獣医師等の処方せん・指示により使用すること

〔貯法及び有効期間〕

1. 遮光して、2～5℃に保存する。
2. 有効期間は製造後 2 年 3 か月間である（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）。

〔包装〕

1 本 50mL

〔2013 年 7 月改訂〕

日生研株式会社
東京都青梅市新町 9 丁目 2 2 2 1 番地の 1

1206SK30